

# 再生 工芸 展

DESIGNART  
TOKYO 2022

New  
Trashditiional  
Craft

2022

10.21 FRI

→ 10.30 SUN

TOKYU PLAZA  
SHIBUYA 3F  
POP-UP SPACE111

会場：〒150-0043 東京都渋谷区道玄坂1-2-3 (渋谷フクラス内) 東急プラザ渋谷3階 ポップアップスペース111 / 営業時間(3階) 11:00~20:00 / アクセス: JR 各線 渋谷駅西口連絡通路「渋谷フクラス歩行者デッキ」直結。東急東横線、田園都市線、京王井の頭線、東京メトロ 半蔵門線、銀座線、副都心線「渋谷」駅より徒歩約3分 / 入場料: 無料 / 参加作家(順不同): 一色 清・亜弥子(湯島アート)、片山 琢満(片山のれん染工所)、戸田 蓉子・梶川由紀(Yohko Toda\_Urushi Media x the edit)、大泉 麗仁、大杉 和美(妄想工場)、真空0、椎名 隆行(椎名切子)・藤田 優惟子、佐々木 萌水(uruō) / プロデュース: 清水覚(オクノテ) / コーディネート: Kaya(IdeaWoman)



ただ、捨てるしかないモノがある。なぜか、捨てられないモノもある。  
生み出され、消費され、役目を終えた数々のモノたち。  
日本では、長く使われたモノには、魂が宿るという考え方がある。  
「一点モノ」を作り出す伝統工芸の力で、もう一度、活力を吹き込み、暮らしの中へ。  
サステナビリティが問われる時代、「モノを再生する」というアンサーを。

## 一色 清・亜弥子

湯島アート

「木版」「金銀箔砂子」「雲母刷毛引き」などの手仕事から始まり、シルクスクリーン印刷なども手掛けています。原点の手仕事を大切に考え、伝統の図柄・材料・技法・美意識を尊重しつつ新しいデザイン・商品の開発にチャレンジしています。

## 大杉 和美

妄想工場

プロダクトを中心とした各種デザインのほか、企画の初期段階から商品展開まで、企業の強みを活かした提案をベースにしたトータルブランディングも手掛ける。また妄想工場としてオリジナル製品の開発販売も行なっている。

## 戸田 蓉子

(協力：堤浅吉漆店)

Yohko Toda\_Urushimedia x the edit

仏・パリのギャラリーにてインターン中に漆に興味を持ち帰国後、東京藝術大学名誉教授大西長利氏に漆芸を師事。国際漆展石川金賞他受賞多数。パリと京都市のアート共創プロジェクト選出アーティスト。東京アートフェア、「Collect」(英・ロンドン)に出品など国内外で高く評価される。日本コカ・コーラ社「綾鷹若手職人応援プロジェクト」に選出され映像作品を制作。Urushimedia主宰。

## 大泉 麗仁

いけばな作家

いけばな草月流 竹中麗湖氏に師事。草月流本部講師。公共施設・店舗・ステージの他、邸宅や別荘での空間演出としての花/植物アートを制作。フランスの国際コンクール「Concours International D'Art Flora」準グランプリ、「Flower Art Award 2016」最優秀作品賞他、受賞歴多数。医師 本間生夫氏(昭和大学名誉教授)「安らぎ呼吸プロジェクト」の研究や企業研修、学校等でいけばなワークショップを開催。いけばな教室 麗-rei-(東京・自由が丘/代官山)主宰。

## 椎名 隆行

椎名切子

2014年、IT企業から家業のガラス加工業をB2Cに向けた会社を起業。全国でも10名程度しかいない平切子(面を作る切子技術)と世界レベルの精度を誇るサンドブラスト技術を駆使し、これまでに無かった全く新しいシン江戸切子と呼べるものを開発している。

## Kaya

IdeaWoman

(株)アイディア・ウーマン代表。外資系航空会社、法律事務所などを経て通訳ガイドとして活動中に「漆器に命のようなもの」を感じたことがきっかけとなり2018年に開業。本物を知る方々のためのオーダーメイドギフトや日本文化体験ツアーを企画販売。国際色豊かなお客様とアーティストと共にNFTや漆のコンテンツポラリーアート(お寿司・錦鯉・アンティークカー)等のプロジェクトが現在進行中。本展にはコーディネーターとして参加。

## 片山 琢満

片山のれん染工所

創業80年を迎える片山のれん染工所の四代目。染色職人として従事して5年目。のれんを主に作っているのが最近では新しい染め(草木染め)などにも挑戦し、染め物の新たな魅力を発信できないか、模索している。

## 真空 0

作家

大学で日本画、鍛金、彫金を学ぶ。動物病院、京都の老舗銀細工工房、アートイベント会社、銀座の画廊の勤務を経て、2021年に「真空0」を開業。金工を中心に、素材を問わず立体から平面作品まで幅広く制作。

## 梶川 由紀

(協力：堤浅吉漆店)

Yohko Toda\_Urushimedia x the edit

何必館・京都現代美術館キュレーター/the edit主宰 パリ、マレ地区にあるヨーロッパ写真館(MEP)の設立に、唯一の日本人キュレーターとして携わる。帰国後、同館にて写真部門を創設し、国内外の展覧会をまとめる。2022年、自身の立ち位置を生かしプロダクトブランドthe editを立ち上げ、アート、工芸の垣根を超えた発信を探求している。

## 佐々木 萌水

uruō

北海道生まれ。京都市立芸術大学修士課程美術研究科工芸専攻漆工を修了。漆の魅力と可能性を広めるために、漆作家として活動している。「uruō」を主宰し、美術作品制作のほか、漆器製作販売、関西を中心に漆教室の講師を務めている。現在は京都市立銅駝美術工芸高校の漆工の非常勤講師も勤める。本展では、京都の街中を流れる高瀬川から採集した陶磁器片を、漆をつかう「金継ぎ」や「呼継ぎ」の手法で繋ぎ合わせた作品を展示。

## 藤田 優惟子

アートディレクター / デザイナー

大学卒業後、広告制作会社・代理店に就いたのち、現在はデザイン会社に所属するかたわらフリーランス活動を積極的にスタート。東京手仕事プロジェクトにおいて椎名切子とともに空き瓶を素材とするSDGsなバングル「GLASS-LAB NEW PRODUCT\_“WA”」をコンセプトから立案、全体デザインを手がける。グラフィックにとどまらず、デザインの幅を広げるべく日々挑戦中。

## 清水 寛

オクノテ

2019年から、会社員として働きながら複業活動として、企画とデザインを提供する個人活動「オクノテ」を開業。さまざまな業態の企業とタッグを組み、新商品・サービスの開発に取り組む。2021年、一色清と「再生工芸」プロジェクトを立ち上げ、本展のプロデュースを担当。